

第2章 メニューとツールバーについて

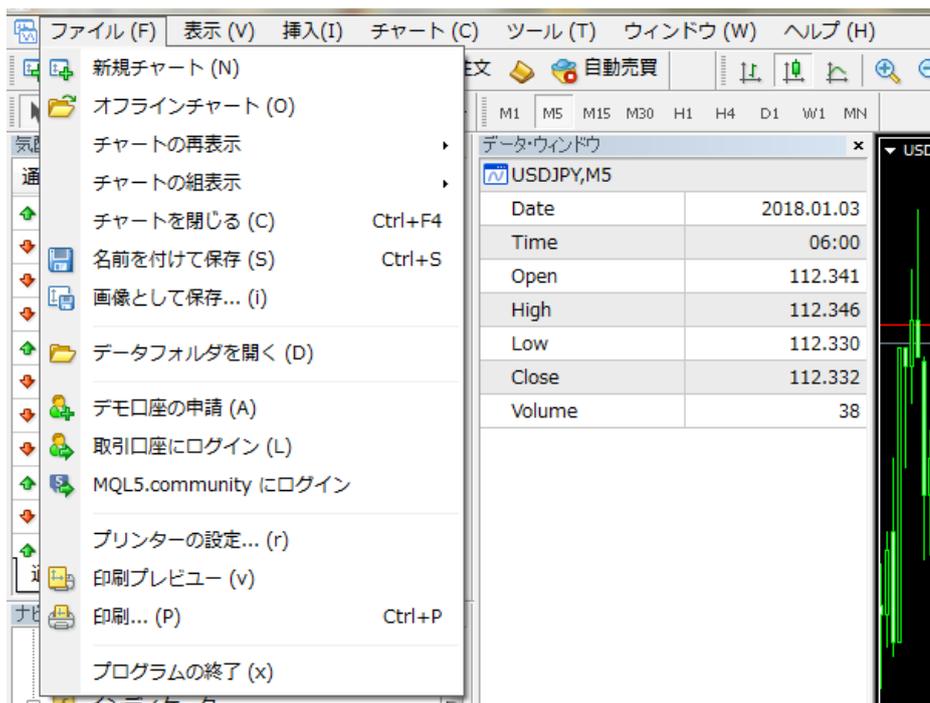
メニューについて

MetaTrader4の全ての操作は、メニューバーに網羅されています。

この章では各メニューの内容を簡単に説明しています。

① ファイルメニュー

チャートの操作、チャートグループの管理、チャート印刷プロパティがこのメニューにまとめられています。メニュー内で使用可能なコマンドは以下の通りです。

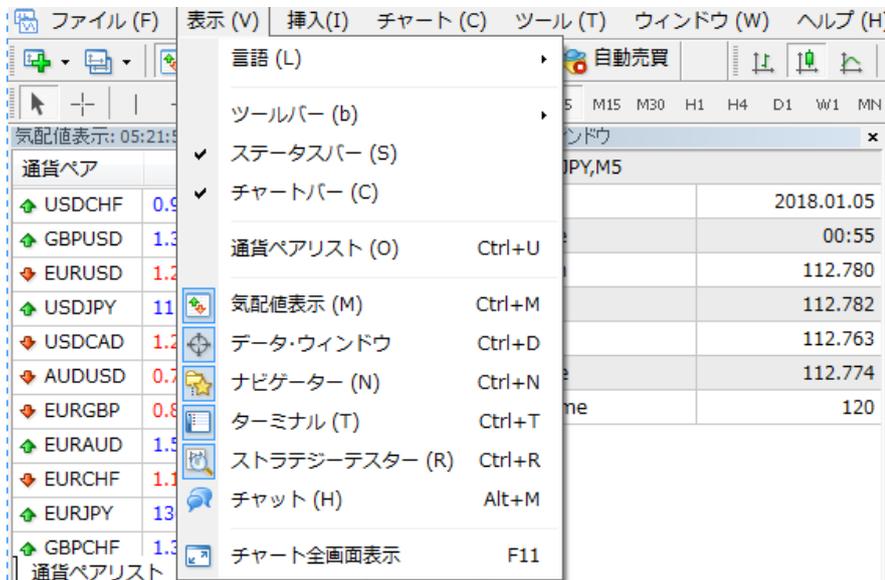


ファイルメニュー	
新規チャート	通貨ペアの新規チャートを開きます。このコマンドを実行すると、利用可能な通貨ペアのリストが表示されます。リストから通貨ペアを選択すると、新しいチャートを開くことができます。 「標準」ツールバーの  ボタンでも同じ操作が可能です。
オフラインチャート	オフラインで通貨ペアのチャートを開きます。このコマンドを実行すると、保存されている履歴データから必要なファイルを選択できます。この場合、チャート内にこの通貨ペアの新しい価格は反映されません。オフラインチャートを開くことはExpertAdvisorのテストに便利です。
チャートの再表示	削除済みチャートの復元をします。削除済みのチャートはターミナル設定の「再表示用に削除済みチャートを保存」が有効化されていれば復元できます。削除された定型チャートは/DELETEDディレクトリに保存されます。この

	コマンドを実行すると、その中の定型チャートが呼び出され、対応するチャートが開きます。
チャートの組表示	チャートグループを管理するサブメニューを開きます。チャートグループはこのサブメニューで保存または削除でき、以前に保存したものをダウンロードすることも可能です。管理するプロファイルは「標準」ツールバーの  ボタンをクリックして呼び出すことも可能です。
チャートを閉じる	現在のチャートを閉じます。
名前を付けて保存	履歴データを「CSV」、「PRN」、「HTM」形式のテキストファイルで保存します。
画像として保存	「BMP」または「GIF」形式でチャートを保存します。チャートのコンテキストメニューコマンドの「画像として保存」でも同じ操作が可能です。
データフォルダを開く	こちらから「エキスパートアドバイザー(EA)」、「インディケータ」等をMT4へ取り込むことができます。
デモ口座の申請	この機能は利用できません。新規デモアカウント取得をご希望の場合は弊社Webサイト(http://www.gaitamefinest.com/)よりお申込ください。
取引口座にログイン	デモまたはライブ口座へのログイン認証です。 このコマンドが実行されると、ターミナルは認証された口座でサーバーへの接続を試みます。認証に成功すると、価格とニュースが配信され始め、取引の開始が可能になります。「ナビゲーター⇒口座」ウィンドウのコンテキストメニューコマンドの「ログイン」コマンドの実行または口座名をダブルクリックすることでも口座の認証ができます。
MQL5.Community にログイン	この機能は利用できません。
プリンターの設定	一般的な印刷パラメーターの設定(プリンター装置、ページ、サイズ、及び印刷の向きなど)をします。
印刷プレビュー	印刷前にチャートイメージを確認します。選択されたプリンターの設定が使用されます。このコマンドにより印刷したい全てのデータがその設定で印刷可能か事前に確認できます。「標準」ツールバーの  ボタンまたはチャートのコンテキストメニュー内の「印刷プレビュー」からも同じ操作が可能です。
印刷	チャートを印刷します。「ツール」メニューのオプション設定で「カラー印刷」に設定していると、チャートは白黒印刷ではなくカラーで印刷されます。「標準」ツールバーの  ボタンをクリック、またはCtrl+Pからも同じ操作が可能です。
プログラムの終了	MT4を終了します。

② 表示メニュー

シグナル画面、ツールバー、プログラムインターフェース言語などの設定に関するコマンドがこの画面にまとめられています。一部の操作は「標準」ツールバーと重複します。表示メニュー内で使用可能なコマンドは以下の通りです。



表示メニュー	
言語	クライアントターミナルの言語を設定するサブメニューを呼び出します。使用したい言語を選択すると、ターミナルインターフェースの言語を切り替えることができます。変更を有効にするにはクライアントプログラムを再起動する必要があります。
ツールバー	ツールバーを設定するサブメニューを呼び出します。動作中のツールバーにはチェックマークが付いています。ツールバーを選択し、有効化または無効化することができます。 「カスタマイズ」コマンドではツールバーのどのボタンを配置するかカスタマイズすることができます。「挿入」または「削除」で表示するツールバーのボタンを追加したり、削除したりします。「上へ」または「下へ」ボタンでツールバー内のボタンの位置を決定します。ツールバーを初期設定に戻すには「リセット」ボタンをクリックします。
ステータスバー	ターミナルウィンドウの最下行に表示されるステータスバーの有効化または無効化をします。左からチャートグループ管理メニュー、選択された通貨ペアの日時と価格、サーバー接続の状況、イン及びアウトのトラフィック量。チャートグループ名(初期設定は Default)の上でクリックすると、メニューが開かれ、チャートグループを保存または削除することが可能です。「ファイル⇒チャートの組表示」でもこのサブメニューを呼び出すことができます。 表示中のチャートをクリックすると、ステータスバーにその通貨ペアの日時と価格が表示されます。

チャートバー	チャート画面の下側に表示されるチャート名のタブを有効化及び無効化します。このタブを使うことで、素早くチャートの表示切替えができます。
通貨ペアリスト	通貨ペアの一覧が表示されます。
気配値表示	「気配値表示」ウィンドウを開閉します。ここに通貨ペアの現在の価格が表示されます。 Ctrl+M または「標準」ツールバーの  ボタンでも同じ操作が可能です。
データ・ウィンドウ	「データ」ウィンドウを開閉します。選択された通貨ペアの価格及び配置されているテクニカル分析の情報がこの画面に表示されます。 Ctrl+D ホットキーまたは「標準」ツールバーの  ボタンでも同じ操作が可能です。
ナビゲーター	「ナビゲーター」ウィンドウを開閉します。この画面には口座のリスト、インディケーター、エキスパートアドバイザ、スクリプトがツリー状に表示されます。 Ctrl+N または「標準」ツールバーの  ボタンでも同じ操作が可能です。
ターミナル	「ターミナル」ウィンドウを開閉します。この画面では取引及び口座履歴、アラーム設定、メールボックス、Experts、操作履歴、を閲覧できます。 Ctrl+T または「標準」ツールバーの  ボタンでも同じ操作が可能です。
ストラテジーテスター	「テスター」ウィンドウを開閉します。この画面ではエキスパートアドバイザのテスト及び最適化を行ないます。 Ctrl+R または「標準」ツールバーの  ボタンでも同じ操作が可能です。
チャット	この機能は利用できません。
チャート全画面表示	全画面表示モードを有効化及び無効化します。このオプションが有効化されると、ツールバーとステータスバーが無効になり全てのシグナル画面が終了します。クライアントターミナルのヘッダー、メインメニュー、チャート、チャート画面のタブだけがスクリーンに表示されます。再度この操作を実行すると、ターミナルは最初の画面に戻ります。F11 ボタン及び「標準」ツールバーの  ボタンでも同じ操作が可能です。

③ 挿入メニュー

チャート上に配置されるオブジェクトは「挿入」メニューにまとめられています。

その中には、図形、矢印、テキスト、テキストラベル、及びライン等と罫線分析ツールが含まれます。

「罫線分析ツール」サブメニューには全ての組み込みテクニカル分析とカスタム分析がグループ化されており、テクニカル分析をリストから選択し、それをアクティブなチャート上に配置することができます。

ライン等は対応するサブメニュー内にまとめられており、「ライン」(種々のライン)、「チャンネル」(チャンネルのセット)、「ギャン」(ギャンツール)、「フィボナッチ」(フィボナッチ数)によるツールがあります。更に、「アンドリュース・ピッチフォーク」及び「サイクル・ライン」はどのグループにも属さず、最後にリストされています。オブジェクトの操作に関する詳細は対応するセクションをご覧ください。

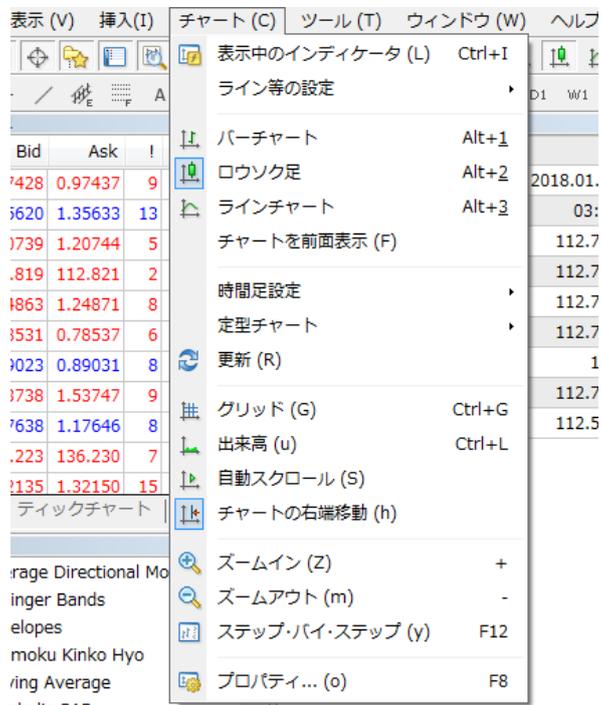


挿入メニュー	
インディケータ	チャートにインディケータを挿入できます。
ライン	各種ライン(垂直線、水平線、トレンドライン)を挿入できます。
チャンネル	各種チャンネルを挿入できます。
ギャン	ギャンラインなどを挿入できます。
フィボナッチ	フィボナッチをチャートに挿入できます。
図形	長方形、三角形、楕円をチャートに挿入できます。
矢印類	チャート上の最も重要なポイントを選択する記号(矢印、チェックサイン、ストップサイン、価格サイン)などをチャートに挿入できます。
アンドリュース・ピッチフォーク	アンドリュース・ピッチフォークをチャートに挿入できます。

サイクル・ライン	サイクル・ラインをチャートに挿入できます。
テキスト	チャート上にコメントを追加するためのテキストです。テキストはチャートに貼り付き、チャートをスクロールすると一緒に動きます。
テキストラベル	コメントを追加します。チャートではなく、ウィンドウの座標に固定されます。チャートをスクロールしてもテキストラベルは動きません。

④ チャートメニュー

チャート及びチャート内に配置されるテクニカル分析の設定、操作に関するコマンドが「チャート」メニューにまとめられています。このメニュー内で使用可能なコマンドは以下の通りです。

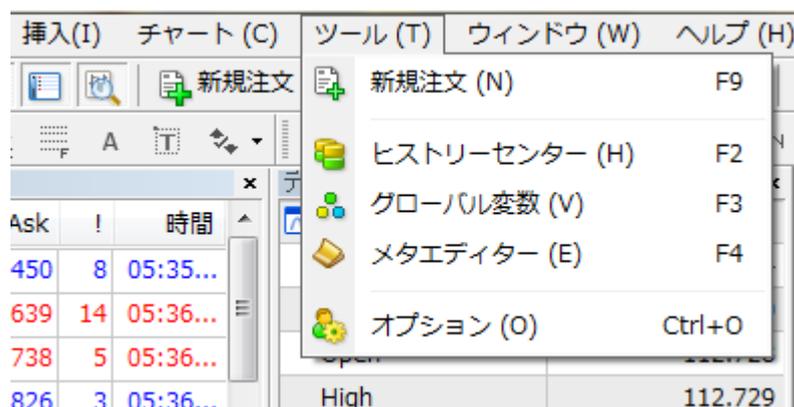


チャートメニュー	
表示中のインディケータ	<p>アクティブなチャートに配置されているテクニカル分析を編集するための画面を呼び出します。画面上には配置された全てのテクニカル分析（カスタム分析を含む）のリストが表示されます。</p> <p>1つのテクニカル分析を選択し、設定の変更やチャートから削除することができます。</p> <p>コンテキストメニューの「表示中の罫線分析ツール」コマンドまたは Ctrl+I でも同じ操作が可能です。</p>
ライン等の設定	<p>【表示中のライン等】</p> <p>配置されたオブジェクトを表示、編集するサブメニューを呼び出します。オブジェクトにはライン、記号、図形、テキストが含まれます。選択したオブジェクトはウィンドウ内の「編集」ボタンで編集でき、「削除」ボタンで削除できます。また、「表示」ボタンはオブジェクトがチャートウィンドウの左端に位置するようにアクティブなチャートを移動します。</p> <p>【直近を削除】</p> <p>最後に配置されたオブジェクトをチャートから削除します。 Backspace</p>

	<p>キーでも同じ操作が可能です。</p> <p>【選択した全てを削除】 選択したオブジェクト全てをチャートから削除します。Delete キーでも同じ操作が可能です。</p> <p>【全ての矢印を削除】 矢印全てをチャートから削除します。</p> <p>【全てを非選択にする】 チャート内の全オブジェクトを選択不可能にします。</p> <p>【削除の取消】 削除したオブジェクトをチャートに復元します。Ctrl+Z でも同じ操作が可能です。</p>
バーチャート	<p>チャートを一連のバーで表示します。</p> <p>「チャート」ツールバーの  ボタンまたは Alt+1 でも同じ操作が可能です。</p>
ロウソク足	<p>チャートを一連の「ロウソク足」で表示します。</p> <p>「チャート」ツールバーの  ボタンまたは Alt+2 でも同じ操作が可能です。</p>
ラインチャート	<p>チャートを通貨ペアの終値をつないだ折れ線で表示します。</p> <p>「チャート」ツールバーの  ボタンまたは Alt+3 でも同じ操作が可能です。</p>
チャートを前面表示	<p>チャートを「前面表示」にします。この機能が有効のとき、全ての分析用オブジェクト(テクニカル分析や図形オブジェクト)は「チャートの裏面」に配置され、前面には表示されません。</p>
時間足設定	<p>チャートの周期を選択します。このコマンドを実行するとサブメニューが表示され、アクティブなチャートに適用される周期を設定することができます。</p> <p>チャート周期は「Period」ツールバーでも変更可能です。</p>
定型チャート	<p>定型チャートを設定、操作するためのサブメニューを呼び出します。このサブメニューから作業中のチャートを定型に配置することが可能です。また、作業中のチャートの新しい定型の保存や既存の定型を削除することも可能です。</p> <p>定型を設定、操作するサブメニューは「チャート」ツールバーの Templates ボタンまたはチャートコンテキストメニューの「定型チャート」コマンドでも呼び出すことが可能です。</p>

更新	<p>履歴データを更新します。履歴に反映されていない全てのデータをダウンロードします。チャートコンテキストメニューの「更新」コマンドからも同じ操作が可能です。</p>
グリッド	<p>チャート画面のグリッドを表示または非表示にします。 チャートコンテキストメニューの「グリッド」コマンドまたは Ctrl+G でも同じ操作が可能です。</p>
出来高	<p>チャート画面の出来高を表示または非表示にします。 チャートコンテキストメニューの「出来高」コマンドまたは Ctrl+L でも同じ操作が可能です。</p>
自動スクロール	<p>新しいバーが生成された後、新しいバーの位置をチャートウィンドウの右端へ自動設定するかしないかの指定をします。自動設定に指定すると、最新のバーが常にチャート上に表示されます。「チャート」ツールバーの  ボタンでも同じ操作が可能です。</p>
チャートの右端移動	<p>チャートの最新のバーの位置をチャートのシフトラベルの位置に移動します。このコマンドを再度実行すると最新のバーはチャートウィンドウの右端に位置付けられます。チャートのシフトラベル(チャートウィンドウ上方のグレーの三角形)はマウスでチャートウィンドウの右端から10%~50%の範囲で水平方向に移動することができます。 「チャート」ツールバーの  ボタンでも同じ操作が可能です。</p>
ズームイン	<p>チャートをズームインします。 「+」キー、「チャート」ツールバーの  ボタン、または水平軸の上を左クリックしながらカーソルを右に動かすことでも同じ操作が可能です。</p>
ズームアウト	<p>チャートをズームアウトします。 「-」キー、「チャート」ツールバーの  ボタン、または水平軸の上を左クリックしながらカーソルを左に動かすことでも同じ操作が可能です。</p>
ステップ・バイ・ステップ	<p>チャートをバー1つ分左に移動します。 F12 キーでも同じ操作が可能です。</p>
プロパティ	<p>チャート全般に関するパラメーターの設定をします。このコマンドを実行すると、チャート設定ウィンドウが表示されます。 チャートコンテキストメニューの「プロパティ」または F8 キーでも同じ操作ができます。</p>

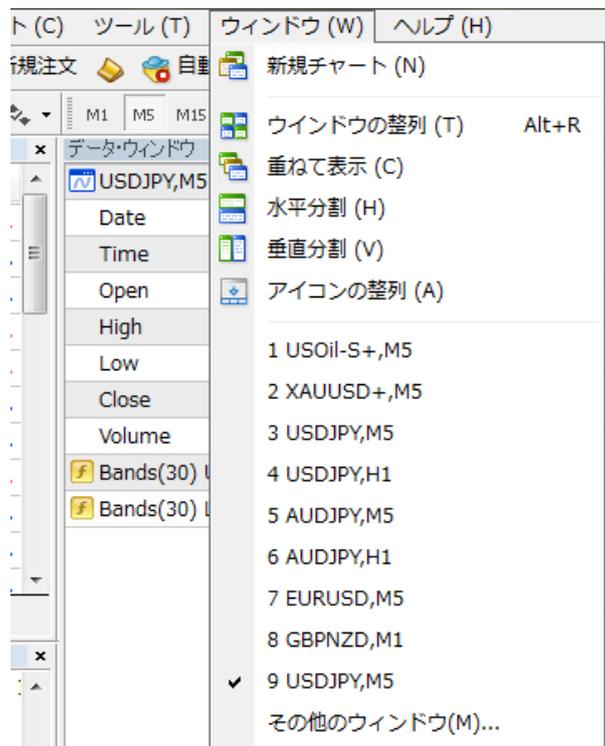
⑤ ツールメニュー



ツールメニュー	
新規注文	<p>新規注文を管理するウィンドウを呼び出します。このウィンドウから成行注文及び指値注文を出すことができます。新規注文に関する詳細はこちらをご覧ください。</p> <p>「気配値表示」及び「ターミナル⇒取引」ウィンドウのコンテキストメニューコマンド、「気配値表示」ウィンドウの通貨ペアのダブルクリック、F9 キー、または「標準」ツールバーの  ボタンでも同じ操作が可能です。</p>
ヒストリーセンター	<p>ヒストリーセンター設定に関するウィンドウを呼び出します。チャートを構成する価格はヒストリーセンターで編集できます。F2 キーでも同じ操作が可能です。</p>
グローバル変数	<p>ターミナルのグローバル変数のリストウィンドウを呼び出します。グローバル変数はエキスパートアドバイザ、スクリプトに共通します。F3 キーでも同じ操作が可能です。</p>
メタエディター	<p>エキスパートアドバイザのメタエディターを開きます。メタエディターではエキスパートアドバイザ及びスクリプトの作成及び編集ができます。メタエディターは F4 キーでも呼び出すことができます。</p>
オプション	<p>クライアントターミナル設定ウィンドウを呼び出します。このウィンドウでは接続、取引、チャート、エキスパートアドバイザなどのパラメーターを設定できます。</p> <p>この「オプション」ウィンドウは Ctrl+O でも呼び出すことができます。</p>

⑥ ウィンドウメニュー

このメニューにはチャート画面を管理するコマンドがまとめられています。ここでは作業領域のチャート整列の方法の選択や新しいチャート画面を開くことができます。



ウィンドウメニュー	
新規チャート	<p>新しいチャート画面を作成します。このコマンドを実行すると、利用可能な通貨ペアのサブメニューが開きます。リストから通貨ペアを選択すると、その通貨ペアのチャートを開くことができます。</p> <p>新規チャート画面は「標準」ツールバーの  ボタンを押すこと、または「ファイル⇒新規チャート」メニューコマンドによって開くことができます。</p>
ウィンドウの整列	既に表示済みの通貨ペアのチャートを全て表示します。
重ね表示	チャート画面を段々に重ねて整列します。
水平分割	チャート画面を水平に並べて表示します。
垂直分割	チャート画面を垂直に並べて表示します。
アイコンの整列	最小化された画面を整列します。開いている全てのチャート画面が最小化され、作業領域の下側に配置されます。これは同時にいくつかのチャートで作業する際に便利な機能です。

⑦ ヘルプメニュー

「ヘルプ」メニューはターミナル操作に関するヘルプ情報がまとめられています。このツールを使用してもターミナル動作に影響を及ぼすことは全くありません。このメニューでは以下のことができます。



※MQL5 関連の機能は英語版のみです。また、MT4 非対応の場合があります。これらは外為ファイネストサイト外へのリンクです。リンク先のウェブサイトにおけるトラブルや損害について、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

主なヘルプメニュー	
ヘルプ・トピックス	「ユーザーガイド」であるヘルプファイルを開きます。クライアントターミナル内の全設定及び機能がここに説明されています。 F1 キーでも同じ動作が可能です。
オンライン検索	この機能は利用できません。
ビデオガイド	「トレードロボットの取得場所は？」「マーケットで買い物をするには？」「トレードシグナルとコピートレード」「バーチャルホスティングと年中無休のトレード」について動画解説の閲覧が可能。
MetaTrader 4 - App Store	iPhone 用 MT4 アプリのインストールページが表示されます。
MetaTrader 4 - Google Play	Android 用 MT4 アプリのインストールページが表示されます。
バージョン情報	ターミナルのバージョン情報を含む「バージョン情報」画面を開きます。

ツールバーについて

MetaTrader4には4つの組み込みツールバーがあります。

MetaTrader4で使われる主なコマンドはボタン形式でツールバーに表示しています。

通常ツールバーはメインメニューの下に配置されますが、クライアントターミナルウィンドウ領域のどの位置にも容易に移動することができます。

ツールバーは「表示⇒ツールバー」メニューコマンドによって表示したり、非表示にしたりすることができます。

全てのツールバーはカスタマイズ可能で、必要なときのみ配置し、その中のコマンドを通して利用されます。ツールバーを設定するためにはそのコンテキストメニューを開き、「カスタマイズ」コマンドを実行します。

各ツールバーのコマンドを一覧にまとめています。

① 標準ツールバー



ターミナルの設定、操作に関する全体的な操作がこのツールバーにまとめられています。

アイコン	説明
	新しい通貨ペアウィンドウを開きます。このコマンドは通貨ペアのリストを表示します。リストから必要な通貨ペアを選び、新しいチャートを開きます。 「ファイル⇒新規チャート」と「ウィンドウ⇒新規チャート」メニューコマンド、及び「気配値表示」⇒「チャート表示」ウィンドウコンテキストメニューでも同じ操作が可能です。
	チャートグループを操作、管理するメニューです。このメニューから選択したチャートグループを有効化します。チャートグループはこのメニューから削除でき、新しいチャートグループは現在のチャートウィンドウ構成に基づいて保存されます。 ※デフォルトのチャートグループは削除できません。 「ファイル⇒チャートの組表示」でも同じ操作が可能です。
	「気配値表示」ウィンドウを開閉します。このウィンドウには利用可能な通貨ペアの現在の価格が配信されます。このウィンドウでは通過ペアのチャートを開き、注文を発注することができます。 「表示⇒気配値表示」メニューコマンドまたは Ctrl+M でも同じ操作が可能です。
	「データ」ウィンドウを開閉します。価格や配置された分析ツールに関する情報がこのウィンドウに表示されます。 「表示⇒データウィンドウ」メニューコマンドまたは Ctrl+D でも同じ操作が可能です。
	「ナビゲーター」ウィンドウを開閉します。開いている全ての口座、利用可能なエキスパートアドバイザー、インディケータ、スクリプトがこのウィンドウにまとめられています。 「表示⇒ナビゲーター」メニューコマンドまたは Ctrl+N でも同じ操作が可能です。

	<p>「ターミナル」ウィンドウを開閉します。このウィンドウでは注文の発注、口座履歴の閲覧、ニュース受信などができます。</p> <p>「表示⇒ターミナル」メニューコマンドまたは、Ctrl+T でも同じ操作が可能です。</p>
	<p>「テスター」ウィンドウを開閉します。このウィンドウではエキスパートアドバイザーのテスト及び最適化を行ないます。</p> <p>「表示⇒テスター」メニューコマンドまたは Ctrl+R でも同じ操作が可能です。</p>
	<p>新しい注文を発注します。この操作を実行すると、成行注文または指値注文を発注するウィンドウが表示されます。</p> <p>「ツール⇒新規注文」メニューコマンド、「気配値表示⇒新規注文」ウィンドウコンテキストメニューコマンド、「ターミナル⇒取引⇒新規注文」ウィンドウコンテキストメニューコマンド、または F9 キーでも同じ操作が可能です。</p>
	<p>メタエディターを起動します。この編集プログラムで、「エキスパートアドバイザー」、「カスタム分析」、「スクリプト」、MQ4ライブラリの作成及び編集ができます。「ツール⇒メタエディター」メニューコマンドまたは F4 キーでも同じ操作が可能です。</p>
	<p>エキスパートアドバイザーを有効化します。このオプションが無効化されていると、チャートに添付されたエキスパートは作動しません。</p> <p>「ターミナル設定」の「エキスパートアドバイザーを有効にする」オプションでも同じ操作が可能です。</p>
	<p>「ターミナル設定」ウィンドウを呼び出します。ターミナルの全ての基本設定はこのウィンドウで行ないます。「ツール⇒オプション」メニューコマンドまたは Ctrl+O でも同じ操作が可能です。</p>
	<p>全画面表示モードを有効化及び無効化します。このオプションが有効の場合、ツールバー及びステータスバーは隠され、全てのサービスウィンドウが閉じられます。クライアントターミナル名、メインメニュー、作業領域(チャート)、チャートウィンドウタブだけが画面上に表示されます。再度この操作を実行すると、ターミナルは前の状態に戻ります。</p> <p>「表示⇒チャート全画面表示」メニューコマンドまたは F11 キーでも同じ操作が可能です。</p>
	<p>チャートを印刷します。プログラム設定で「カラー印刷」オプションが有効化されていると、チャートは白黒印刷ではなくカラーで印刷されます。</p> <p>「ファイル⇒印刷」メニューコマンドまたは「チャート」コンテキストメニューの「印刷」コマンドでも同じ操作が可能です。</p>
	<p>印刷前のチャート確認をします。ここで選択したプリンターの設定を行ないます。印刷前に必要なデータ全てが印刷できるか確認できます。</p> <p>「ファイル⇒印刷プレビュー」メニューまたは「チャート」コンテキストメニューの「印刷プレビュー」コマンドでも同じ操作が可能です。</p>

	ヘルプファイルを呼び出します。このボタンをクリックし、必要なヘルプファイルセクションを開くために、知りたいインターフェイス機能をクリックします。「ヘルプ⇒ヘルプ・トピックス」メニューコマンドまたは F1 キーでも同じ操作が可能です。
---	--

② チャートツールバー



チャート及びチャート内に配置するテクニカル分析の設定、操作はこのツールバーにまとめられています。このツールバーには以下の機能が含まれます。

アイコン	説明
	チャートを一連のバーで表示します(バーチャートへの変換)。 「チャート⇒バーチャート」メニューコマンドまたは Alt+1 でも同じ操作が可能です。
	チャートを一連のロウソク足で表示します(ロウソク足チャートへの変換)。 「チャート⇒ロウソク足」メニューコマンドまたは Alt+2 でも同じ操作が可能です。
	チャートを一連の折れ線で表示します(ラインチャートへの変換)。 「チャート⇒ラインチャート」メニューコマンドまたは Alt+3 でも同じ操作が可能です。
	チャートをズームインします。 「チャート⇒ズームイン」メニューコマンド、チャートコンテキストメニューの「ズームイン」コマンド、「+」キーでも同じ操作が可能です。
	チャートをズームアウトします。 「チャート⇒ズームアウト」メニューコマンド、チャートコンテキストメニューの「ズームアウト」コマンド、「-」キーでも同じ操作が可能です。
	既に表示済みの通貨ペアのチャートを全て表示します。
	チャートを最新のバーに自動移動します。このオプションが有効の場合、最新のバーが常にチャートに表示されます。「チャート⇒自動スクロール」メニューコマンドでも同じ操作が可能です。
	チャートの最新のバーの位置をチャートのシフトラベルの位置に移動します。チャートのシフトラベル(チャートウィンドウ上方のグレーの三角形)はマウスでチャートウィンドウの右端から 10%~50%の範囲で水平方向に移動することができます。「チャート⇒チャートの右端移動」メニューコマンドでも同じ操作が可能です。

	<p>テクニカル分析を設定、操作するサブメニューを呼び出します。全ての組み込みテクニカル分析がここにまとめられています。リストから名前を選択し、アクティブなチャートにそのテクニカル分析を配置できます。</p> <p>「挿入⇒インディケータ」メニューコマンドでも同じ操作が可能です。</p>
	<p>チャートの周期を設定するサブメニューを呼び出します。このサブメニューで周期を選択すると、アクティブなチャートがその周期で表示されます。</p> <p>チャート周期の切り替えは、「チャート⇒周期設定」メニューコマンド、チャートコンテキストメニューの「周期設定」コマンド、または「周期設定」ツールバーの周期設定ボタンでも同じ操作が可能です。</p>
	<p>定型チャートを設定、操作するサブメニューを呼び出します。このメニューから定型チャートをアクティブなチャートに配置できます。また、アクティブなチャートの新しい定型チャートはアクティブなチャートの構成に基づいて保存され、既存の定型チャートを削除することも可能です。</p> <p>「チャート⇒定型チャート」メニューコマンドまたはチャートコンテキストメニューの「定型チャート」コマンドでも同じ操作が可能です。</p>

③ ライン等ツールバー



チャート上に配置する「ライン」とグラフィカルオブジェクト(幾何学的図形、サイン、テキスト)は「オブジェクト」ツールバーにまとめられています。「十字」と「カーソル」を除く全てのコマンドは「挿入」メニューと重複します。オブジェクトの操作に関する詳細は「オブジェクト」セクションをご覧ください。このツールバーの他のアイコンはグラフィカルオブジェクトで作業するために、またカーソル操作モードを変更するために使われます。

アイコン	説明
	<p>楕円を挿入します。この図形でチャートの種々の領域を選択することができます。</p> <p>「挿入⇒図形⇒楕円」でもこの図形を挿入することができます。</p>
	<p>三角形を挿入します。この図形でチャートの種々の領域を選択することができます。「挿入⇒図形⇒三角形」でもこの図形を挿入することができます。</p>
	<p>長方形を挿入します。この図形でチャートの種々の領域を選択することができます。「挿入⇒図形⇒長方形」でもこの図形を挿入することができます。</p>
	<p>テキストラベルを追加します。このボタンをクリックし、ラベルを配置するチャート内のポイントを選択します。下記のテキストとは異なり、テキストラベルはチャートではなくチャート画</p>

	面に貼り付けられます。チャートをスクロールしてもテキストラベルは動きません。「挿入⇒テキストラベル」でもチャートにコメントを加えることができます。
	チャートにテキスト(コメント)を追加します。テキストはチャートに直接固定されます。チャートをスクロールすると、テキストも一緒に移動します。 「挿入⇒テキスト」でもチャートにテキスト(コメント)を加えることができます。
	矢印の設定をします。このメニューでチャートに図形チャートサインの追加や配置されたサインを削除することができます。 「挿入⇒矢印」でもチャートにこれらの図形を配置できます。
	十字カーソルが十字モードのとき、チャート画面や分析ツール画面で選択した位置の座標をハイライトすることができます。この機能はアクティブな画面でのみ使用できます。「十字」モードのとき、マウスの左側を押しながらカーソルを動かすと、2つのポイントをつなげる線が表示されます。これらのポイント間の長さや現在の価格が、この線の2番目のポイントの右側に表示されます。この機能は電子定規と言います。カーソルを十字モードに切り替えるには Ctrl+F、マウスホイールでも同じ操作が可能です。
	標準カーソル(選択モード)です。このモードのカーソルでチャートの種々のオブジェクトを選択できます。

④ 周期設定ツールバー



このツールバーでチャートの周期設定の切り替えを行います。ツールバーのボタンをクリックするとアクティブな画面のチャート周期が変更されます。そのすぐ後に選択された通貨ペアと周期のデータアップロードが始まります。

左から M1(1分足)、M5(5分足)、M15(15分足)、M30(30分足)、H1(1時間足)、H4(4時間足)、D1(日足)、W1(週足)、MN(月足)の順になります。